

# 交通政策基本計画の数値指標の進捗状況について

---

# 数値指標の進捗状況の概況

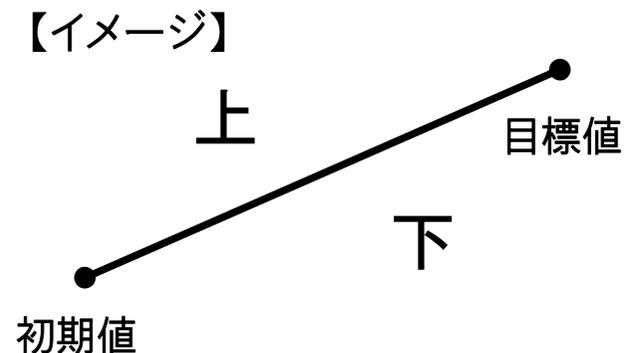
○交通政策基本計画の数値指標(56項目(93細目))の進捗状況は、次のとおり。

## 【数値指標の進捗状況の区分】

現状値が、初期値と目標値を結ぶ直線よりも上にある場合:上

現状値が、初期値と目標値を結ぶ直線よりも下にある場合:下

現状値が、把握できていない場合 :—



区分	2017年
上	55
下	36
—	2
計	93

# 各数値指標の進捗状況(1/4)

指標番号	指標名	初期値		→	現状値		→	目標値		斜線の上下	
1	改正法に基づく地域公共交通網形成計画の策定総数	2013年度	—(0件)	→	2016年度	273件	→	2020年度	100件	上	
2	鉄道事業再構築実施計画(鉄道の上下分離等)の認定件数	2013年度	4件	→	2016年度	8件	→	2020年度	10件	上	
3	デマンド交通の導入数	2013年度	311市町村	→	2016年度	516市町村	→	2020年度	700市町村	上	
航路、航空路が確保されている有人離島の割合											
4	①航路	2012年度	100%	→	2016年度	100%	→	2020年度	100%	上	
	②航空路	2012年度	100%	→	2016年度	100%	→	2020年度	100%	上	
5	LRTの導入割合(低床式路面電車の導入割合)	2013年度	24.6%	→	2016年度	28.6%	→	2020年度	35%	下	
6	コミュニティサイクルの導入数	2013年度	54市町村	→	2016年度	87市町村	→	2020年度	100市町村	上	
車両のバリアフリー化											
7	①鉄軌道車両	2013年度	60%	→	2016年度	68%	→	2020年度	約70%	上	
	②ノンステップバス	2013年度	44%	→	2016年度	50%	→	2020年度	約70%	下	
	③リフト付きバス等	2013年度	4%	→	2016年度	6%	→	2020年度	約25%	下	
	④旅客船	2013年度	29%	→	2016年度	40%	→	2020年度	約50%	上	
	⑤航空機	2013年度	93%	→	2016年度	97%	→	2020年度	100%	上	
	⑥福祉タクシー車両	2013年度	13,978台	→	2016年度	15,128台	→	2020年度	約28,000台	下	
旅客施設等のバリアフリー化											
①段差解消											
8	鉄軌道駅	2013年度	83%	→	2016年度	87%	→	2020年度	約100%	下	
	バスターミナル	2013年度	82%	→	2016年度	91%	→	2020年度	約100%	上	
	旅客船ターミナル	2013年度	88%	→	2016年度	100%	→	2020年度	約100%	上	
	航空旅客ターミナル	2013年度	85%	→	2016年度	89%	→	2020年度	約100%	下	
	②視覚障害者誘導ブロックの整備率										
	鉄軌道駅	2013年度	93%	→	2016年度	94%	→	2020年度	約100%	下	
	バスターミナル	2013年度	80%	→	2016年度	89%	→	2020年度	約100%	下	
	旅客船ターミナル	2013年度	62%	→	2016年度	67%	→	2020年度	約100%	下	
	航空旅客ターミナル	2013年度	94%	→	2016年度	100%	→	2020年度	約100%	上	
	③障害者対応トイレの設置率										
鉄軌道駅	2013年度	80%	→	2016年度	84%	→	2020年度	約100%	下		
バスターミナル	2013年度	63%	→	2016年度	72%	→	2020年度	約100%	下		
旅客船ターミナル	2013年度	71%	→	2016年度	85%	→	2020年度	約100%	上		
航空旅客ターミナル	2013年度	100%	→	2016年度	97%	→	2020年度	約100%	下		
④特定道路におけるバリアフリー化率											
		2013年度	83%	→	2016年度	88%	→	2020年度	100%	下	
⑤特定路外駐車場におけるバリアフリー化率											
		2012年度	51%	→	2015年度	58%	→	2020年度	約70%	上	
⑥主要な生活関連経路における信号機等のバリアフリー化率											
		2014年度	約98%	→	2016年度	99.5%	→	2020年度	100%	上	
9	ホームドアの設置数	2013年度	583駅	→	2016年度	686駅	→	2020年度	約800駅	上	

# 各数値指標の進捗状況 (2/4)

指標番号	指標名	初期値		現状値		目標値		斜線の上下	
東京圏の鉄道路線における最混雑区間のピーク時間帯混雑率									
10	①主要31区間の平均値	2013年度	165%	→	2016年度	165%	→	2015年度 150%	下
	②180%超の混雑率となっている区間数	2013年度	14区間	→	2016年度	12区間	→	2015年度 0区間	下
11	東京圏の相互直通運転の路線延長	2013年度	880km	→	2016年度	880km	→	2020年度 947km	下
12	信号制御の改良による通過時間の短縮 ※2015年4月1日を起算日とした場合の時間短縮効果	2015年4月1日 (起算日)	0万人 時間/年短縮	→	2016年度	999万人 時間/年短縮	→	2020年度 約5,000万人 時間/年短縮	下
13	大型貨物自動車の衝突被害軽減ブレーキの装着率	2012年度	54.4%	→	2016年度	66.1%	→	2020年度 90%	下
14	相互利用可能な交通系ICカードが導入されていない都道府県の数	2013年度	12県	→	2016年度	6県	→	2020年度 0県	上
15	バスロケーションシステムが導入された系統数 (うちインターネットからバスの位置情報が閲覧可能な系統数)	2012年度	11,684系統 (10,152系統)	→	2015年度	16,165系統	→	2020年度 17,000系統	上
16	首都圏空港の国際線就航都市数(旅客便)	2013年度	88都市	→	2016年度	100都市	→	2020年度 アジア主要空港並	上
17	三大都市圏環状道路整備率	2014年度	68%	→	2016年度	74%	→	2020年度 約80%	上
18	我が国空港を利用する国際線旅客のうちLCC旅客の占める割合	2013年	7%	→	2015年	14%	→	2020年 17%	上
19	首都圏空港の空港処理能力	2013年度	71.7万回	→	2016年度	74.7万回	→	2020年度 74.7万回 +最大7.9万回	下
20	国際コンテナ戦略港湾における大水深コンテナターミナルの整備数	2012年度	3バース	→	2016年度	13バース	→	2016年度 12バース	上
国際コンテナ戦略港湾へ寄港する国際基幹航路の便数									
21	①北米基幹航路	2013年度	デイリー寄港 (京浜港 週30便、 阪神港 週12便)	→	2016年度	デイリー寄港を 維持 (京浜港 週22便、 阪神港 週8便)	→	2018年度 デイリー寄港 を維持・拡大	上
	②欧州基幹航路	2013年度	週2便	→	2016年度	週2便	→	2018年度 週3便	下
22	国際海上コンテナ・バルク貨物の輸送コスト低減効果(対平成25年度総輸送コスト)	2014年度	0.6%減	→	2015年度	1.4%減	→	2020年度 約5%減	上
23	国内線旅客のうちLCC旅客の占める割合	2013年	6%	→	2016年	10%	→	2020年 14%	上
北陸新幹線・北海道新幹線の開業を通じた交流人口の拡大									
24	①北陸新幹線	2014年度	-	→	-	-	→	2014-17年度 20%増	-
	②北海道新幹線	2015年度	-	→	-	-	→	2015-18年度 10%増	-
25	道路による都市間速達性の確保率	2013年度	49%	→	2015年度	53%	→	2020年度 約55%	上
26	高速バスの輸送人員	2011年度	約11,000万人	→	2014年度	11,570万人	→	2020年度 約12,000万人	上
27	国内海上貨物輸送コスト低減率(対平成25年度総輸送コスト)	2014年度	0.1%減	→	2015年度	0.9%減	→	2020年度 約3%減	上
空港、鉄道駅における無料公衆無線LAN(Wi-Fi)の導入									
28	①主要空港	2013年度	87%	→	2016年度	96%	→	2020年度 100%	上
	②新幹線主要停車駅	2013年度	52%	→	2016年度	86%	→	2020年度 100%	上

# 各数値指標の進捗状況 (3/4)

指標番号	指標名	初期値		→	現状値		→	目標値		斜線の上下
29	国際空港における入国審査に要する最長待ち時間	2013年	最長27分	→	2016年	<b>最長35分</b>	→	2016年度	最長20分以下	下
30	クルーズ船で入国する外国人旅客数	2013年	17.4万人	→	2016年	<b>199.2万人</b>	→	2020年	100万人	上
31	交通分野における日本企業の海外受注額推計	2010年	約0.45兆円	→	2015年	<b>1.3兆円</b>	→	2020年	7兆円	下
主要な交通施設の耐震化										
32	①首都直下地震又は南海トラフ地震で震度6強以上が想定される地域等に存在する主要鉄道路線の耐震化率	2012年度	91%	→	2016年度	<b>97%</b>	→	2017年度	概ね100%	上
	②緊急輸送道路上の橋梁の耐震化率	2013年度	75%	→	2016年度	<b>約77%</b>	→	2020年度	81%	下
	③災害時における海上からの緊急物資等の輸送体制がハード・ソフト一体として構築されている港湾(重要港湾以上)の割合	2014年度	約31%	→	2016年度	<b>79%</b>	→	2020年度	約80%	上
	④航空輸送上重要な空港のうち、地震時に救急・救命、緊急物資輸送拠点としての機能を有する空港から一定範囲に居住する人口	2014年度	9400万人	→	2015年度	<b>約9,500万人</b>	→	2020年度	1億700万人	下
航路標識の災害対策										
33	①航路標識の耐震補強の整備率	2013年度	75%	→	2016年度	<b>81%</b>	→	2020年度	100%	下
	②航路標識の耐波浪補強の整備率	2013年度	74%	→	2016年度	<b>83%</b>	→	2020年度	100%	下
	③航路標識の自立型電源導入率	2013年度	84%	→	2016年度	<b>87.3%</b>	→	2016年度	86%	上
34	重要交通網にかかる箇所における土砂災害対策実施率	2014年度	約49%	→	2016年度	<b>52%</b>	→	2020年度	約54%	上
35	道路斜面や盛土等の要対策箇所の対策率	2013年度	62%	→	2016年度	<b>約68%</b>	→	2020年度	75%	上
36	信号機電源付加装置の整備台数 ※2015年4月1日を起算日とした場合の整備台数	2015年度	0台	→	2016年度	<b>444台</b>	→	2020年度	約2,000台	下
37	市街地等の幹線道路の無電柱化率	2014年度	16.0%	→	2016年度	<b>16.3%</b>	→	2020年度	20%	下
主要な交通施設の長寿命化										
38	①個別施設ごとの長寿命化計画(個別施設計画)の策定率(道路(橋梁))	2014年度	-	→	2016年度	<b>65%</b>	→	2020年度	100%	上
	②個別施設ごとの長寿命化計画(個別施設計画)の策定率(港湾)	2014年度	97%	→	2016年度	<b>99%</b>	→	2017年度	100%	上
39	国際戦略港湾・国際拠点港湾・重要港湾における港湾の事業継続計画(港湾BCP)が策定されている港湾の割合	2012年度	3%	→	2016年度	<b>100%</b>	→	2016年度	100%	上
40	航路啓開計画が策定されている緊急確保航路の割合	2013年度	0%	→	2016年度	<b>67%</b>	→	2016年度	100%	下
41	空港の津波早期復旧計画の策定空港数	2013年度	4	→	2016年度	<b>7</b>	→	2016年度	7	上
42	支援物資輸送の広域物資拠点として機能すべき特定流通業務施設の選定率	2013年度	28%	→	2016年度	<b>69%</b>	→	2016年度	100%	下
43	首都直下地震又は南海トラフ地震の影響が想定される地域における国、自治体、有識者及び多様な物流事業者からなる協議会の設置地域率	2013年度	0%	→	2016年度	<b>83%</b>	→	2017年度	100%	上

# 各数値指標の進捗状況(4/4)

指標番号	指標名	初期値		→	現状値		→	目標値		斜線の上下
運輸安全マネジメントの普及										
44	①運輸安全マネジメント評価実施事業者数	2013年度	6,105事業者	→	2016年度	<b>8,039事業者</b>	→	2020年度	10,000事業者	上
	②運輸安全マネジメントセミナー及び認定セミナー等の受講者数	2013年度	17,799人	→	2016年度	<b>50,281人</b>	→	2020年度	50,000人	上
45	鉄道の対象曲線部等における速度制限機能付き上TS等の整備率	2013年度	89%	→	2015年度	<b>100%</b>	→	2016年6月	100%	上
鉄道の対象車両における安全装置の整備率										
46	①運転士異常時列車停止装置	2013年度	98%	→	2016年度	<b>100%</b>	→	2016年6月	100%	上
	②運転状況記録装置	2013年度	94%	→	2016年度	<b>100%</b>	→	2016年6月	100%	上
自動車事故による重度後遺障害者に対するケアの充実										
47	①訪問支援サービスの実施割合	2013年度	49.5%	→	2016年度	<b>66.3%</b>	→	2016年度	60%	上
	②短期入所を受け入れる施設の全国カバー率	2013年度	12.8%	→	2016年度	<b>87.2%</b>	→	2020年度	100%	上
48	主要航空会社の航空機操縦士の人数	2012年	約5,600人	→	2016年	<b>6,151人</b>	→	2020年	約6,700人	上
49	主要航空会社への航空機操縦士の年間新規供給数	2012年	120人	→	2016年度	<b>193人</b>	→	2020年	約210人	上
50	海運業(外航及び内航)における1事業者あたりの船員採用者数	2011年度	1.83人	→	2016年度	<b>3.65人</b>	→	毎年度	1.83人以上を維持	上
道路運送事業等に従事する女性労働者数 <span style="float: right;">2009-20年度 倍増</span>										
51	①バス運転者	2011年度	約1,200人	→	2014年度	<b>約1,500人</b>	→	2020年度	約2,500人	下
	②タクシー運転者	2013年度	約6,700人	→	2014年度	<b>約6,900人</b>	→	2020年度	約14,000人	下
	③トラック運転者	2013年度	約20,000人	→	2016年度	<b>約20,000人</b>	→	2020年度	約40,000人	下
	④自動車整備士(2級)	2009年度	約2,400人	→	2016年度	<b>約4,000人</b>	→	2020年度	約4,800人	上
52	海洋開発関連産業に専従する技術者数	2013年度	約560人	→	2014年度	<b>約720人</b>	→	2020年度	約2,400人	下
モーダルシフトに関する指標										
53	①鉄道による貨物輸送トンキロ	2012年度	187億トンキロ	→	2016年度	<b>197億トンキロ</b>	→	2020年度	221億トンキロ	下
	②内航海運による貨物輸送トンキロ	2012年度	333億トンキロ	→	2015年度	<b>340億トンキロ</b>	→	2020年度	367億トンキロ	下
54	新車販売に占める次世代自動車の割合	2013年度	23.2%	→	2016年度	<b>35.5%</b>	→	2020年度	50%	上
55	一定規模以上の輸送能力を有する輸送事業者の省エネ改善率	2014年度	-1%	→	2014年度	<b>-1%</b>	→	毎年度	直近5年間の改善率の年平均-1%	上
56	信号制御の改良によるCO <sub>2</sub> の排出抑止量 ※2015年4月1日を起算日とした場合の排出抑止量	2015年4月1日(起算日)	0t-CO <sub>2</sub> /年	→	2016年度	<b>17,573t-CO<sub>2</sub>/年</b>	→	2020年度	約10万t-CO <sub>2</sub> /年	下

青字: 2015年9月の社会資本整備重点計画の改訂により見直された数値指標